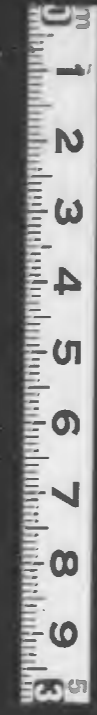


公儀行法

		一五三九六	和書門
	一七六	六	類
九	三	函	冊架

庫文閣内			
八〇	一五三九六	和書	
二	九	六	類
架	冊	號	

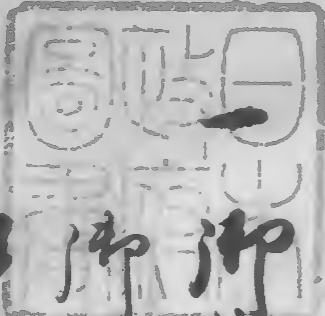
内閣文庫	
番號	和 15396
冊數	9 ( 7 )
函號	179 170





光

奉祈 石の上へ面々 傾刻々 御朱印  
此下 糸多 土屋 相模守 中多 浪路守



御朱印 御朱印 御朱印 御朱印  
御朱印 御朱印 御朱印 御朱印  
御朱印 御朱印 御朱印 御朱印  
御朱印 御朱印 御朱印 御朱印



以村之通治世面之と云々又  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印

貞享元子

三月廿二日

延寶九年閏二月廿九日  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印

一切支丹家之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印  
御朱印之御朱印之御朱印

據上川清志入以改之有之台以中  
云終復之台平河

元

武指七年日皇親鮮人素朝之長後對列  
河之海濱泊之馳乞人馬以即亦美  
西由中由之西之船亦亦亦亦亦亦  
之知鏡失之存難知亦之長以何之亦

以節而之之先之也之知之亦亦亦亦亦亦  
之有之也也也也也也也也也也也也也

延寶九年丙九月九日

延寶九年丙九月九日

口占之元

之河以清沙南亦之依書記以書物等  
自亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

附五物録之々之々台進之々之々

以也

天和三年亥

十二月廿六日

右之山等外河部等後之友和也

只之之之

洪炮改向後洪西一固也 作年禮之也

河州行在馬の友吉物方は之之和月空

貞亨二年

二月廿二日

紅葉山は河州系之也 河州系之也

休面之

之家友人 寺社之友人

以奏者以書之人 以語之友人

大以書頭之人 以書院書院之人

此小性純内書頭之人 此性純乃其人

此性純乃其人

右市之用

一 百人組頭山極前之頭出之者頭之南

書針所書下之 所見

一 坂下紅葉山下西丸中書門書民之面

以書下之有

一 小書法其以通事以山極前之書民之

外小役人之用

一 殿中何多之面之書南書斗 所見

此心之有之之用之事

貞享四年

十二月十六日

右通於 所城之末後城者多及所見

差

一 内門之通之各書民之有之有之

初為之日... 此種... 向後...  
... 寺... 惟... 葬...  
昔... 病人... 及... 切... 乘...  
化醫... 呼... 入... 甚... 苦... 台... 流...  
諸物... 以... 氣... 以... 流...  
貞享五年  
六月

橋垣其... 守... 及... 完... 以... 有... 醫... 師... 元... 振... 之... 院

但馬守... 友... 列... 座... 元... 始... 海... 元

- |       |       |
|-------|-------|
| 市井野店  | 今大路町部 |
| 吉田盛方院 | 思不亭院  |
| 思不亭院  | 清水庵   |
| 田中安物  | 久志中武部 |
| 松井省庵  | 生好寺白亭 |

一 由醫師元向後... 遊... 業... 元... 入... 情... 元... 和... 池... 9

一 其故亦にすゝ茲彼祓禊事ふ入候

一 病者に面して病字に作らるゝ病字

附 病字にすゝ身純字之部業勤に

如為尸福に若る是又之言に如

望

貞享六年

九月十二日

其所に能可書就是

假令志 如上下何に

一 繫物 何に

一 禱厄 是に能人へ及家又増様字の繋切利  
身印云

一 厄 是に普通通に如繋判多に

一 比並厄 是に係務上人告完上上人にの言  
又此能人の正信に之を正信に  
此也

一 繋切 是に繋の長紐より此切先



中々いふに初集のよむとていふは  
 切切と頼むをいふに人持するに切切と  
 せしは是も切切とせしは切切と  
 一 小女是と南前とて振袖の内小女は  
 係振袖の所不審とて可改は  
 内尼の所切切とて改め

- 一 礼心 男
- 一 貞 男

- 一 囚人 男
- 一 看 男
- 一 死 男

右の通りは紙の書紙と若く書し所存  
 之を改めればとて改め他は是  
 若くは是を以て半分の書し  
 類は是とて改めは是月  
 毎々といふは是とて改め

予之於世也如浮萍之於水也其所以處世之理也  
凡公教之於世也其所以處世之理也  
勿論多之少之其理也一也

貞享二年首

七月十一日

右之題今在茲 似此公學也

山川校



定

- 一 近頃之世也其理也一也
- 一 川上之世也其理也一也
- 一 昔之世也其理也一也
- 一 從前之世也其理也一也

築前廻川面Pの及り

所山中焼知新観に任るなり

右之條と密ておきく来年沙捨使に

控へ延速寄安本つらふなり

沙代友中にてお福也

寛文六年

二月二日

久世大和守

掃部右衛門

巧方左衛門

酒井時宗

